

半直立型チャ新品種「せいめい」のセル苗定植1年目の倒伏・株張り対策

「せいめい」のセル苗は、定植1年目の5月下旬に剪枝することで、強風による倒伏が軽減され、秋季の株張りが広がる

背景・目的

- ・本県では、抹茶や有機栽培の適性が高く、輸出に向く新品種「せいめい」の栽培面積が拡大
- ・セル苗を用いた機械化体系で、定植作業を省力化
- ・セル苗の定植1年目は、翌年まで枝条を伸ばす放任管理が多く、倒伏による欠株が課題
- ・「せいめい」は、樹姿が半直立型で、株張りが小さいことから、早期の株張り対策が必要

成果の内容

- ・定植1年目の倒伏は、出荷時の剪枝の有無にかかわらず、5月下旬頃に剪枝（地上15cmの位置）することで、軽減できる（図1）
- ・定植1年目の剪枝は、従来（放任管理）に比べ秋季の分枝数が増え、株張りが大きくなる（表1）

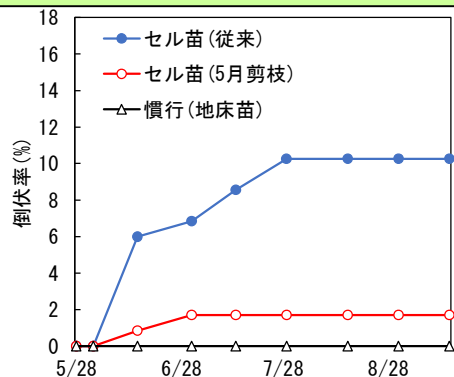


図1 生育中の倒伏率の推移
注) 定植は2月28日

表1 秋季の生育の違い

| 区 | 生存率 (%) | 分枝数 (本) | 株張り (cm) |
|----------|---------|---------|----------|
| セル苗・5月剪枝 | 99 a | 8.8 a | 34.4 a |
| セル苗・従来 | 92 b | 7.3 b | 27.3 b |
| 慣行(地床苗) | 100 a | 6.5 b | 30.3 b |
| 分散分析 | ** | * | ** |

注1) 生存率は、逆正弦変換後の数値で検定した
 2) **は、1%水準、*は、5%で有意差あり
 3) 異なるアルファベット間は、TukeyのHSD検定により5%水準で有意差あり



剪枝前(5月下旬)



剪枝後(15cm)

- ・5月に剪枝できない場合
生育状況や倒伏具合を見ながら、二番茶後の6月に剪枝の可否を判断する
- ・より効果的な防風対策
剪枝+ソルゴーの間作が望ましい

期待される効果

- 倒伏による欠株防止
- 秋季の株張り拡大



「せいめい」の早期成園化



- 普及対象・範囲
県内茶生産者及び茶業技術員

鹿児島県農業開発総合センター
茶業部栽培研究室